

それは、細菌学さいきんがくの研究でした。若松の渡部先生のところへ、顕微鏡けんびきょうの中へうごめいていた回帰熱かいかねつの細菌を見た感動があつたのです。清作の目的は、開業医かigyōいから細菌学の研究に向けられていきました。

やがて、清作は、世界的な細菌学者として有名な北里柴三郎博士きたざとしほさぶろうのたてた北里伝染病研究所でんせんびびよに助手として入所することになりました。この医者は、ほとんどが大学卒業で、独力どくりきよで開業医の試験に合格しただけの医者はいません。その中にまじって、どんなことでも学びとる勢いで勉強しました。しかし、助手の資格しかない独学の清作には、なかなか研究の機会あたいを与えてもらえません。「やはり、大学を出ていないと医学者になれないのだろうか。独学でも、実力さえあれば研究はできるはずだ。しかし、ぼくには。」

と、思うようになり、暗い気持ちになつていきました。

清作は、生活には困らないほどの月給げつきゅうをもらっていたのですが、暗い気持ち